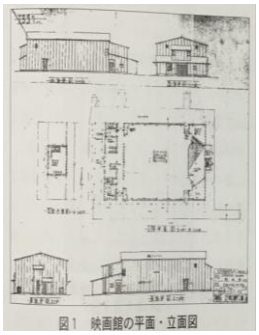
大阪市大旧教養地区中庭の「発掘調査」

大阪市大（現在は大阪公立大）の図書館に行くとき、旧教養地区を通ることが多い。昨年の夏ごろから中庭で「埋蔵文化財発掘調査」が行われ、何が発掘されるかに興味があった。２枚目の写真は学術情報総合センターの屋上から撮った発掘現場。

昨日、図書館で何が発掘されたのか判明した。たまたま「大学史資料室ニュース」2022 年 3 月を手にとると、表紙の写真 2 に、米軍接収期の映画館（南西方向より 1950 年代中頃撮影）が掲載されていた。大学史資料室・客員研究員の松本裕行さんが、今回の発掘で明らかになった占領期遺構について解説している。

本学の接収期の状況については、大学史資料室が所蔵する「1 号館地下書庫資料」に詳しい内容が記載されている。とくに接収物件の契約内容を示した「調達要求書」や占領軍に関わる建物の状況を図面で示した「返還財産引渡調書」。接収解除後に撮影された記録写真などがある。



これらの資史料を用いて発見された遺構を確認すると、建物番号 T-337 として記録されている「映画館」であることが判明した。映画館は、接収期間中の中でかなり遅く建造されており、少なくとも 1952～3 年以降での竣工であり、接収解除後の 1957 年までには解体されている。

映画館の基礎遺構は確認できたが、この中で不思議な地下構造物も発見されている（写真 1）。地下構造物は明らかに映画館の遺構とは軸がずれた位置にあり、映画館よりも以前に建造されたとしか考えられないような姿で発見された。短い階段が南北に 1 つずつ、柱を立てたと思われる大小の穴が確認できる。天井があったとすれば、屈んで入れるくらいの空間であったと推測される（写真 2）。筆者は、給水配管に関係するものと考えていたのだが、そのような特徴的な痕跡は確認できなかった。接収以前より存在していたとすれば、戦時中の大阪海兵団による接収時に関係するものとも考えられるが、この地下構造物の謎を紐解く資史料を発見するには至っておらず、今後の調査次第では、新たな発見となる可能性もあり、引き続き資料調査を進めていきたい。

（2022 年 6 月 13 日）